

回覧

令和 3 年 (2021 年) 度 第 三 回 定 例 役 員 会 2021 年 3 月 6 日 (土)

～2021 年 3 月 5 日 (金) 作成～

< 館長報告 >

館長 土井 承夫 (どいよしお)

三寒四温を実感する気温差のある気候ですが、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、今月は、昨年 9 月 11 日付けで倉吉市役所に提出した「コミュニティ助成金申請書」(全 71 ページ)の内容が行政側で審査され助成するかどうかが決まります。決定されればその助成金は速やかに交付されます。その受給決定通知はこの 3 月下旬に行われます。執行部としては住民の皆様のご協力を得てまさに、「人事を尽くしました」、後は朗報を待つばかりであります。

助成金の交付(限度額 1,500 万円)が決まれば直ちに準備していた建設計画の具体的プロセスに入り皆様に事前に承認頂いている工程表に基づいて実際の作業を進めて参ります。また、「公民館建設資金計画書」は皆様に圧倒的多数を以て承認頂いた今年の「福庭自治公民館定期総会議案書(書面決済用)」の 12 ページに掲載しております。この「コミュニティ助成金」以外の収入(財源)は全て見通しが立っております。今後の建設スケジュールの概略は下記の通りです。

< 公民館新築の今後の予定 >

今後の福庭自治公民館新築スケジュールは次のようになります。

令和 2 年 9 月 11 日 に「コミュニティ助成金申請書」を提出した→令和 3 年 (2021 年) 3 月下旬に上記助成金受給決定通知 → 同年 5 月業者の指名入札 →6 月解体作業の着工→7 月新築工事の着工 → 令和 3 年(2021 年)11 月末 新公民館の完成
--

＜福庭自治公民館新築特別寄附金（自主的な寄附）の集計状況＞

住民の皆様からの上記の自主的な寄附金の集計状況をこの後もこの館長報告でお伝えしていきます。受け付け窓口は館長の私、土井承夫です。（26-0770、携帯 080-4261-1979）お電話を下されば、私が戴きに参ります。

＜受付期限の延長＞

この寄付金の受付期限を1年間延長し新公民館が完成する令和3年11月末日と致します。また新公民館完成後も様子を見ながら引き続き受け付け致します。

*令和3年(2021年)2月28日(日)現在の集計結果(総計)は次の通りです。

(1) 寄付頂いた世帯数： 146世帯 (全体の約35.4%)

(2) 寄附金の合計： 465万円

(3) 個々の寄付金額の概要：最高額：30万円(1名) 30万円(福庭青年団) 25万円(2名：1名は福庭、もう1名は福庭以外の方です) 10万円(13名) 5万円(10名)、3万円(21名)、2万円(14名)、1万円(83名・内1名は福庭以外の方です)

(先月と同じ内容です。数値に変更はありません)

～ 館長のちょっと一服コーナー ～

～映画「サウンド・オブ・ミュージック」で“トラップ大佐”役を演じた
クリストファー・プラマー(Christopher Plummer)氏を悼(いた)む～

1965年(昭和40年)に公開され現在までの世界の興行収入記録の第3位を保持しているミュージカル映画(英)「サウンド・オブ・ミュージック」の“トラップ大佐”役を演じたクリストファー・プラマー(Arthur Christopher Orme Plummer)氏が先月2月5日に亡くなりました。91歳でした。

その映画の中では、主人公で家庭教師役のマリア(ジュリー・アンドリュース)の夫役を演じました。また、他の数々の映画に出演し、“アカデミー演技三冠”(アカデミー賞、エミー賞、トニー賞)を獲得した世界でも数少ない名優の一人でした。ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

そこで先日この映画「サウンド・オブ・ミュージック」のビデオを全編、なるべく英語だけで視聴してみました。（日本語の字幕が出る英語版のビデオでした。ちなみに、「日本語字幕付き」は英語で「**With Japanese subtitle**」と言います）この映画のストーリーについては良くご存じの方が多くと存じますので、ここではその説明は致しません。その代わりに、この「一服コーナー」の特徴である本題に関連する「学校では教えない“よもやま話”」をお届けします。

(1) この映画の舞台はオーストリアのザルツブルク（モーツアルトの生誕地）ですが、この町を除いてオーストリアではこの映画が上映されたことはかつてありません。4年前の私の平成29年11月号のレポートで「忠臣蔵」の事を記述しました。名君・吉良上野介（きらこうずけのすけ）の地元、吉良町のある愛知県西尾市では「忠臣蔵」の映画は一回も上映されていませんし、小中学校では忠臣蔵のテレビや映画は観ないように教育されています。トラップ大佐やその妻マリアは映画の10年前に実在した人物で「トラップ一家の合唱団」も実際にありました。然し、トラップ大佐（実際は少佐）は独ナチと同じオーストリアのファシズム党（全体主義の党）を支持した人物でありナチと戦った自由主義の英雄として描いたこの映画はオーストリアの史実を捻じ曲げた愚作と評価されています。

(2) コンパニオン (Companion) とはイギリスの勲章制度で第3位にあたり「教養ある優秀な若い女性」の事を指します。スナック等から旅館にコンパニオンを呼んで宴会をやる時は、その女性たちに最高の敬意を払って接するように致しましょう！ちなみに、トラップ大佐のクリストファー・プラマーは最高位のナイト (Knight) の勲章を得ました。ナイトに叙任された人は「サー」(Sir) を名前の前に付けます。「ナイト」にあたる女性の称号は「デーム」(Dame) であり名前の前にレデイ (Lady) を付けます。Sir の男性の妻も自動的に Lady と呼ばれます。



< ユーデルワイスを歌う
トラップ大佐 >

(3) 「学校では教えないミスター・ドイのワンポイント英語講座」・・・この映画の前半に長女リーズルがボーイフレンドの郵便配達ロールフと逢引きするシーンがありますが、自分に電報を打つ時の文章の結びに書く「心をこめて」に当たる英語について面白いやり取りがあります。16歳のリーズルが最後に受け入れた英語の単語は「シンシアリー」(Sincerely) ではなく「コーディアリー」(Cordially) でもなく、愛情の意味を含む「アフエクショニットリー」(Affectionately) でした。若い男性諸君は是非参考にして下さい。以上



< トラップ大佐がマリア (ジュリーアンドリュース) にプロポーズするシーン >